事例１　ＩＣＴ端末を活用し、考えを可視化することで、多面的・多角的に話し合う事例

○学年　　第４学年
○事例のポイント
① 主人公が母の言葉から様々な人物への思いをめぐらせている場面において、ＩＣＴ端末の色別カードを使って考えを分類したり共有したりすることで、話合いを深める。
② 授業を通して考えたことをＩＣＴ端末に蓄積し、学習の積み重ねを見えるようにする。
③ 教師はＩＣＴ端末の操作技能について児童の実態を把握し、書く分量や時間、入力方法を配慮する。

ＩＣＴを活用した主な学習場面	展開（話合い）

ＩＣＴ活用の利点

①ＩＣＴ端末の活用により、ワークシート等への記述や発言が苦手な児童の支援になる。
②児童一人一人がＩＣＴ端末に自分の考えを入力することで、教師は児童の学習状況を把握しやすくなる。
③意見共有が容易になることで、児童は多様な考えに触れ、多面的・多角的に考えることができる。

１　主題名　思いやりの心　**内容項目**　Ｂ　親切、思いやり

２　ねらい　母えいの言動に対する栄一の気持ちを話し合う活動を通して、親切な行為には困っている人や苦しんでいる人のことを思いやる気持ちがあることに気付き、相手のことを考え、親切にしようとする心情を育てる。

教材名　一輪の花（出典：「彩の国のどうとく『みんななかよし』埼玉県教育委員会」）

３　主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について
　中学年における内容項目Ｂ「親切、思いやり」には、「相手のことを思いやり、進んで親切にすること。」とある。これは低学年の「身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。」を発展させたものであり、高学年の「誰に対しても思いやりの心をもち、相手の立場に立って親切にすること。」へ発展していくものである。
　よりより人間関係を築く上で、相手に対して思いやりの心をもち親切にすることが大切である。思いやりとは、相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量り、相手に対してよかれと思う気持ちを相手に向けることである。また、相手の喜びを自分の喜びとして受け入れられるようにし、具体的に親切な行為ができるようにすることが大切である。学校生活において、学校の人々や友達など様々な人と多様な関わり合いをもつ中で、相手のことを親身になって考えて親切にしようとする心情を育てたい。
　指導に当たっては、相手の置かれている状況、困っていること、大変な思いをしていること、悲しい気持ちでいることなどを自分のこととして想像することによって相手のことを考え、親切な行為を自ら進んで行うことができるようにしていくことが大切である。
(2) これまでの学習状況及び児童の実態について
　児童は、これまで道徳科において、優しくしてもらった経験を基に、主人公の気持ちや行動の変化を話し合うことを通して、思いやりの気持ちをつなげることのよさに気付き、自分にできることを考えて親切にすることについて学んできた。しかし思いやりの心をもち、親切にできる児童がい

る一方で、落とした文房具を拾うことや保健室に一緒に行ってあげるなどの行いだけを優しさと捉えている児童も多く、相手の立場を深く考えた上での行為とはなっていない。さらに、親切な行為を人任せにしてしまっている傾向も見受けられる。

そこで、本教材では、相手に対しての思いやりの心とはどのようなものなのか、母えいの言動から自分の行動振り返る栄一に自分を重ねて考えることを通して、一度立ち止まり、相手が何を求めているのかを考え、親切にしようとする心情を育てたい。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、埼玉県の偉人である渋沢栄一とその母を扱った話である。誰に対しても優しく思いやりをもった態度で接する母の姿から、栄一は人に対する優しさや思いやりの在り方を学び、その後の彼の生き方に大きな影響を与えた。栄一が慈悲深い母の言動をどのような気持ちで受けとめたかをじっくり考えさせることにより、思いやりの心について気付かせたい。

本学級の実態を受け、主に次の場面を話し合うことにする。

① 病気の娘（りん）に優しく接している母（えい）を離れたところから見ている場面
ここでは、自分も病気になるのではないかという不安から、病気の娘とは関わりたくないと思っている栄一の気持ちを共感的に考えられるようにする。

② 部屋に戻り、母の言葉について考えている場面
ここでは、母の言った言葉の意味を真剣に考え、自分の行動を振り返り始めた栄一の心の内をとらえさせる。その際にＩＣＴ端末を活用し、「これまでの栄一について」「母親の優しさについて」「娘への思い」の３つの視点に係る考えを可視化し共有することで、多面的・多角的に考え、議論できるようにする。

③ 一輪の花をたむける母の姿を見つめている場面
ここでは、母の言動から思いやりの心とは何かを知った栄一の心の内をじっくりと考えられるようにする。

４　学習指導過程

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の発言	・指導上の留意点　☆評価の視点
導入	１　アンケート結果について知る。 アンケート内容と結果 ② 親切にしたことはありますか。 ・はい　３３人 ・いいえ　２人	・親切にしたことある人が多い。 ・したことがない人もいる。 ・この前、友達に親切にした。 ・友達にしてもらったこともある。	・アンケート結果を電子黒板に写しながら、振り返ることで、児童の日常生活と教材を結びつけられるようにする。
	アンケート内容と結果 ① それは、誰に、どんなことをしましたか。 ・家族　お手伝いをした ・友達　消しゴムを貸した ・先生　プリントを配った	・妹の荷物を片付けてあげたことがある。 ・一緒に保健室に行ってあげたことがある。 ・教科書を貸してあげた。 ・先生のお手伝いをした。	・これまでの親切にした自分等を振り返り、どんな気持ちでやっていたか考えることで、本時のねらいに係る問題意識を高められるようにする。

電子黒板の活用

アンケートの結果をプレゼンテーションソフトでまとめておくことで、視覚的に捉えやすくなり、スムーズに導入を行えた。

T ：親切にしたことがある人は多いですね。
T ：誰にどんなことをしましたか。
C1：友達が困っていたから声をかけてあげた。
C2：落ちていた友達の筆箱を拾ってあげた。
C3：弟におもちゃを譲ってあげた。
T ：たくさんの親切がありますね。家族や友達、先生など**身近な人にすることが親切**ですか。**「～してあげた」が多いみたいだけど、どんな気持ちで親切にしていましたか**。

展開	2　教材の登場人物や条件・情況について知る。		・教材への関心を高め、話合いをスムーズに行えるようにするために、条件・情況を確認する。

〈登場人物〉　主人公「栄一」、母（えい）、病気の娘（りん）
〈条件・情況〉・りんは近所に住んでいて、長い間病気にかかり一人で暮らしている。
・病気は人にうつると噂されている。

場面提示の工夫

テレビ画面に場面絵を映し、人物名や条件・情況を加筆することで、視覚的に捉えやすくした。

	3　教材「一輪の花」の読み聞かせを聞き、話し合う。 （1）むすめのそばに寄れない栄一はどのようなことを考えていたのでしょう。	・病気になりたくない。 ・むすめの病気がうつってしまうかもしれない。 ・なんで母親は優しくできるのだろう。	・自分も病気になるのではないかという不安から、病気の娘とは関わりたくないと思っている栄一の気持ちを共感的に考えられるようにすることで、人の弱さや醜さなど人間理解を深められるようにする。

展開

人間理解を深める話合い

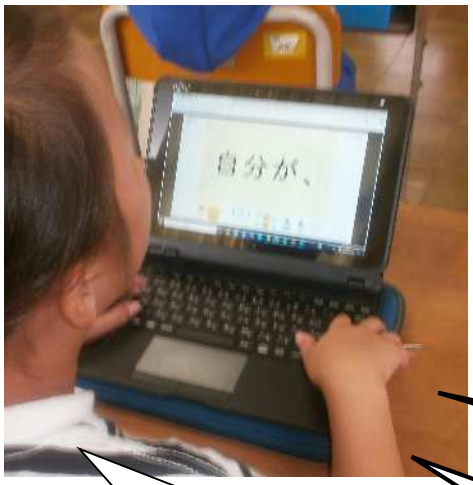
児童の発言を受容し、りんに近づきたくない、関わりたくない気持ちをさらに深めた。

T ：むすめのそばに寄れない栄一はどのようなことを考えていたのでしょう。
C1：娘の病気がうつるかもしれないから寄りたくない。
C2：お母さんに病気がうつってしまったらどうしよう。
T ：**病気になるのは嫌ですよね。**
C3：病気になってしまうとつらいし、もしかしたら死んでしまうかもしれない。
T ：そうですよね。風邪をひいただけでも体がだるくてつらいですものね。**きっと娘さんもつらいのではないですか。でも、そばに寄れないのはどうしてでしょう。**
C4：かわいそうだとは思うけど、自分に病気がうつると、人から避けられてしまうかもしれない。

（2）部屋に戻った栄一は、母の言葉からはどのようなことを考えているのでしょう。	・お医者様がうつらないと言っても心配だな。 ・うわさでうつるかもしれないと思って近づかなかった自分は相手にわるいことをしてしまったな。 ・一人でつらい思いをしているのにひどいことをしてしまった。 ・自分にもできることがあるかもしれない。	・母の言葉から自分の行動を振り返り始めた栄一の心の内を複数の視点から捉えていくことで、道徳的価値について多面的・多角的に考えられるようにする。 ☆栄一自身の気持ちと母親や娘の気持ちを捉え、友達の考えと比較しながら聞き、物事を多面的・多角的に考えている。

ＩＣＴ端末を活用した話合いの工夫

電子黒板に母の言葉を提示することによって、今、何について考えればよいのかわかりやすくした。



事例のポイント③

ＩＣＴ活用の利点①

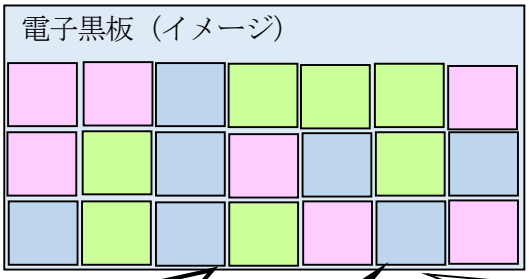
学習支援ソフト(SKYMENU)に自分の考えを整理し、表現することによって、考えが可視化された。
付箋の色を母親（えい）、自分自身（栄一）、娘（りん）の三種類に分け、立場を明確にして考えさせた。

展開

ＩＣＴ端末を活用しながらグループで意見交換を行い、考えを深めた。また、友達の考えを聞いて、考えに変化があった場合はＩＣＴ端末に追記することで、考えの変化を可視化し、変化やその理由についてさらに話し合った。

「規律ある態度」の育成

【話を聞き、発表する】
話合いのとき、相手に体を向け友達の考えを比較しながら聞けるようにする。



事例のポイント①

ＩＣＴ活用の利点②・③

電子黒板には、児童の考えが一覧で見られるようにし、考えの相違点や類似点、気になる点を視点に話合いが活発になるようにした。

T ：部屋に戻った栄一は、母の言葉からどのようなことを考えているのでしょう。
《ＩＣＴ端末を活用し考えを共有する。》
T ：友達の考えを読んで、似ているところ、違うところ、気になるところはありましたか。
C1：私は自分や母親のことしか考えていなかったけれど、〇〇さんは、他の人から避けられているりんのことを考えていていいなと思いました。
T ：りんさんのことを考えた栄一自身はどんなことを考えたかな。
C2：今まで、自分のことしか考えていなかったことを恥ずかしく思うかもしれない。
C3：りんさんのことを考えると、今まで母親が優しくしてきたことも納得できると思う。
C4：そうだね。私も、母親のようにりんさんに優しくしようと思う。
T ：C4 さんは、母親のようにりんさんに優しくしようと考えているけれど、それはどうしてですか。
C4：病気でつらいだけでなく、他の人から避けられてずっと一人でいたりんさんの事を考えたら自分にできる事をしたいと思いました。

（３）お墓に一輪の花をたむけている母の姿をそっと見ている栄一はどんなことに気付いたのでしょう。	・僕は自分のことしか考えていなかった。 ・お母さんのように誰にでも親切にできるようにしたい。 ・お母さんはりんのことを考えたからこそ他人にあんなにも親切にできるんだな。	・母の行動から思いやりの心とは何かを知った栄一の心をじっくりと考えさせることで、価値理解を深められるようにする。

展開

価値理解を深める話合い

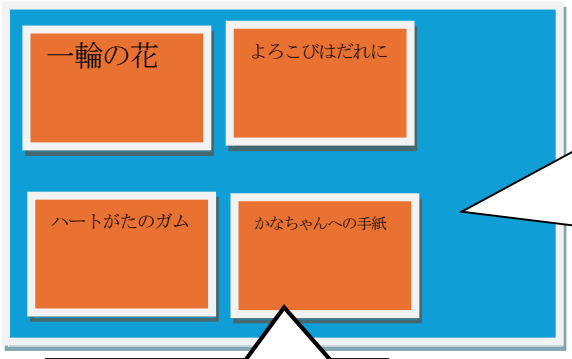
子どもの発言から相手を思いやることについて考えさせる発問を行う。

T ：お墓に一輪の花をたむけている母の姿をそっと見ている栄一はどんなことに気付いたのでしょう。
C1：お母さんは家族でもない人にまで優しくしていてすごいな。
C2：僕もお母さんのように誰にでも親切にしたいな。
T ：栄一と母親の違いはどんなところだったのでしょう。栄一になくて、母親にあったものはどんなものだったでしょう。
C3：人を思いやる気持ち。
T ：人を思いやるってどういうことですか。
C3：相手の立場になって、相手の気持ちを考えること。
C4：栄一は自分や母親の身近な人のことしか考えていなかった。
C5：親しい人や身近な人だけではなく、誰に対してもできることだと思います。
C6：思いやりのある人は、他人の気持ちを一緒に感じられる人だと思います。
T ：それはどういうことですか。
C6：相手がつらいと思えば一緒につらいと思うし、相手が喜んだら自分もうれしくなれるようなことだと思います。

4　自己を見つめ、自己の生き方について考える。
・今までの生活を振り返り、今日の授業で考えたことを書きましょう。

・自分の経験を振り返り、今後の生き方について自分らしく表現できるようにする。
☆今までの自分を振り返り、本時の内容を踏まえながら、思いやりの心や相手のことを考えた、親切にすることについて、自分との関わりで考えている。

ＩＣＴ活用の利点①・②



事例のポイント②・③

児童自身の学びを蓄積する工夫

発達の段階に応じ、中心的な発問への考えや振り返りをＩＣＴ端末の学習支援ソフト（ＳＫＹＭＥＮＵの発表ノート）に入力させることにより、これまでの学びがいつでも確認できるようにする。
※内容項目ごとにフォルダや色で分類すると振り返りやすい。

終末

5　教師の説話を聞く。

市内の小中学生が書いた作文の中から、思いやりに関するものを紹介した。作文に偉大な人物だけではなく、自分たちと同じ小学生も思いやりの気持ちをもって生活していることに気付き、相手のことを考え、思いやりをもって生活することのよさを感じることができるようにした。

・児童にとって身近な説話をすることで、児童自身の経験やその時に感じたことを想起し考えられるようにする。また、内容項目を押しつけないように、児童が本時を通して感じたことを考えながら聞けるようにする。

5　板書

6　他の教育活動との関連

・帰りの会の「今日のキラリ」として相手のことを思って行った親切を発表することができるようにする。
・学級活動の「3 年生となかよくなろうの会」では、思いやりをもって、遊びの内容を考えたり、行動したりできるようにする。

7　評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】
・栄一自身の気持ちと母親や娘の気持ちを捉え、物事を多面的・多角的に考えている。
【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】
・思いやりの心をもって親切にすることについて自分との関わりで考えている。